

あいち農福連携セミナー事例報告

農福連携に向けた

J Aグループ愛知の取組

愛知県農業協同組合中央会 2021.9.2

私たちJAのめざすもの

協同組合の「相互扶助」の精神のもと、 農業者の営農と生活の向上を図り、 よりよい社会を築くこと

【主な事業・活動】

- ・ 農畜産物の共同販売、肥料や農薬の共同購入
- ・ 集出荷場やカントリーエレベーターなどの共同利用施設の設置
- ・ 貯金の受入れ、営農や生活資金の貸し付け
- ・ 万一のリスクに備えた共済

など

はじめに

JA 愛知中央会は、 県内20JAと連合会の 健全な発展を図ること を目的とした組織です。

JAグループにおいて
JA 愛知中央会は
ココになります。

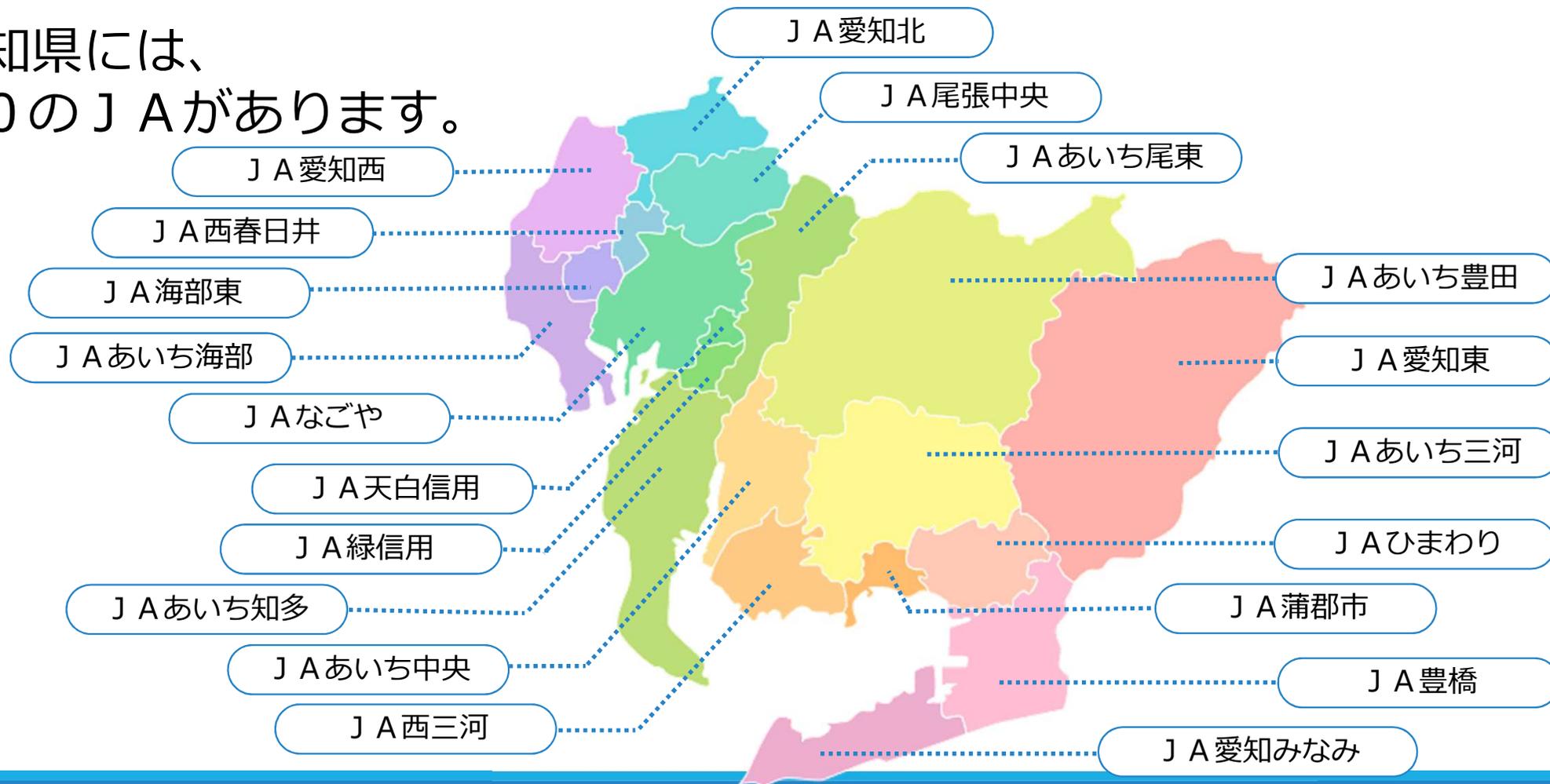
【主な取り組み】

- JAおよび連合会の組織・経営の支援や監査の実施
- JAグループ役職員・組合員に対する教育の実施
- JAグループ愛知を代表して行政庁に対する意見の提出 など



はじめに

愛知県には、
20のJAがあります。



【研究会の開催】

県下 J A の現状や意見を聞き、農業労働力の確保に向けた取り組みについて調査・研究に取り組みました。



**障害のある方とのWIN-WINの関係をめざして
福祉施設への農作業の委託によって取り組もう！**

愛知県

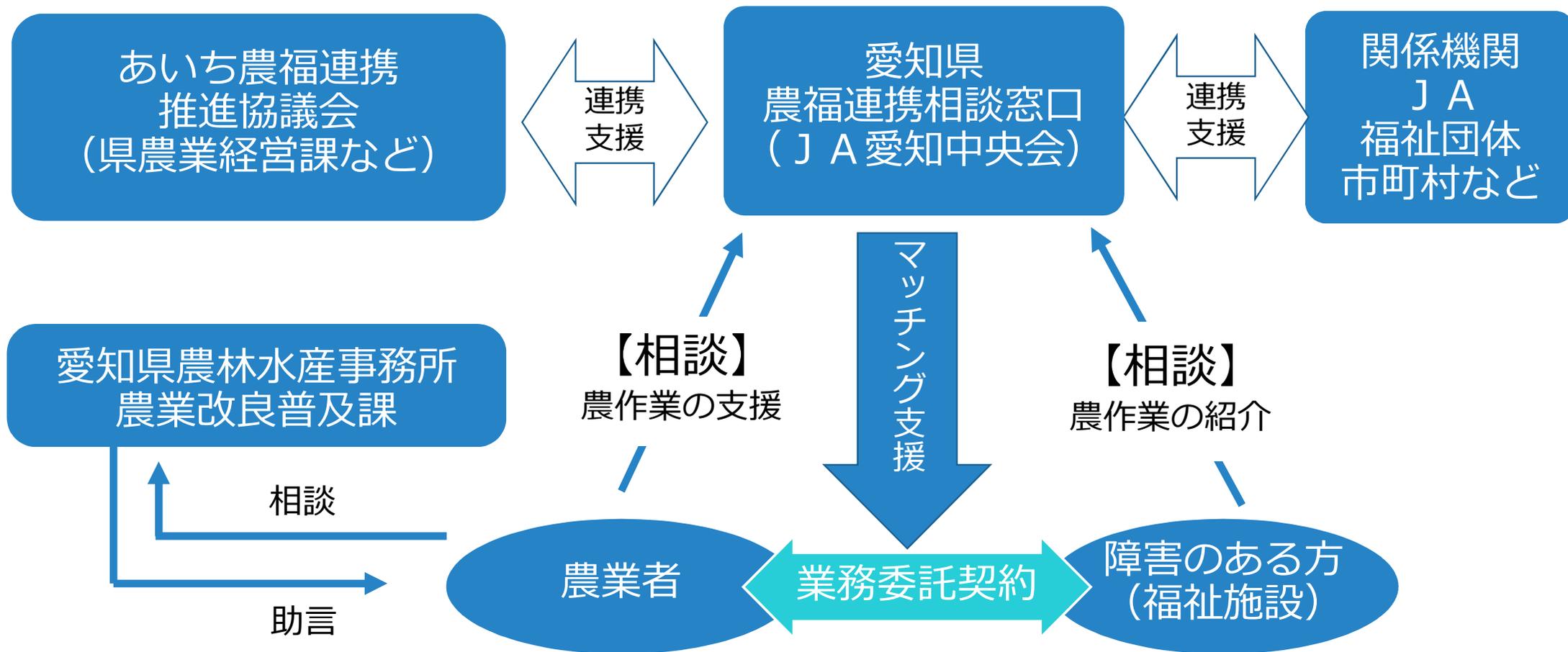
農福連携相談窓口の設置及びマッチング支援

- ・ 県域に「農福連携相談窓口」を整備・運営します。
- ・ 労働力確保のニーズ調査を実施・把握します。
- ・ 施設内外就労のマッチング支援と実証を行います。
- ・ 農福連携のノウハウを蓄積し、マッチング事例を作成します。

J A 愛知中央会

**この事業を受託し、農業者およびJAの協力のもと、
農福連携のノウハウの蓄積を図ろう！**

福祉施設への
農作業の委託による
農福連携



農福連携に対する農業者のニーズ

愛知県の農業者が、 農福連携(施設内外就労)に ニーズを持っているか？

【調査の概要】

- ・対象：
農業経営士、青年農業士、農村生活アドバイザー
- ・手法：
郵送によるアンケート方式
- ・結果：
回答数288通（回収率22.1%）
- ・その他：
施設外就労の説明用リーフレットを同封（右図）



**農福連携 “農業と福祉の連携”
ご存知ですか？**

農福連携ってなに？
農業分野と福祉分野双方の課題を解決しながら、
双方に利益があるWin-Winの関係を作り上げる取り組みです。

農福連携推進の目的は？
農業分野においては障害のある方に農作業を行ってもらい、福祉分野においては、農の福祉力によって障害のある方に自信や生きがいを持ってもらうことで、地域を豊かにしていくことを目的としています。

農福連携の方法は？
「愛知県農福連携相談窓口」を設置し、農業分野・福祉分野の双方からの
取り組みを支援します。

「愛知県農福連携相談窓口」の主な業務（施設外就労の定着化支援）

- ◆農業者や障害者施設（作業所）等の意向把握
- ◆障害のある方に適した農作業の整理
- ◆障害のある方の施設外就労に向けた支援（農業・福祉のコーディネーターを配置）

※「施設外就労」とは、障害のある方と障害者施設（作業所）の職業指導員さんがユニットを組み、請け負った作業を現地で行う活動のことです。
個人との雇用契約ではありませんので社会保険等の加入は不要です。また
作業報酬は、作業量や内容に応じて障害者施設（作業所）へ支払います。



農福連携に対する農業者のニーズ

	質問事項	はい	いいえ	その他	未回答	合計
1	農福連携の施設外就労に関心がありますか	103 (36%)	177 (61%)	5 (2%)	3 (1%)	288 (100%)
2	農福連携の施設外就労を既に行っていますか	9 (3%)	278 (97%)	1 (0%)	0 (0%)	288 (100%)
3	農福連携の施設外就労に取り組みたいですか	38 (13%)	221 (77%)	16 (6%)	13 (5%)	288 (100%)
4	農福連携の施設外就労を今後勉強したいですか	85 (30%)	188 (65%)	5 (2%)	10 (3%)	288 (100%)

※ () 内は割合を示す。なお小数点第1位を四捨五入により端数処理を行っている。

※「その他」は、「はい・いいえ」の回答が無く、欄外に状況・意見の記載があったものである。

農業者は農福連携に興味・関心はあるものの、
農福連携に対する理解不足や取り組み方法が分からないため、
農福連携が進まないと推察できます。

ニーズの掘り起こし

農業と福祉との連携に向けて、農業者の「理解不足」「分からない」を解消して、ニーズの掘り起こしに取り組みました。

**営農指導事業の取り組みから、
労働力ニーズや農福連携に対する関心などの情報を収集**

**生産部会に対する説明会を通じて、
農福連携に対する理解促進と農福連携のニーズを収集**

**愛知県農福連携相談窓口として、
県市町村関係者や福祉事業者からの情報を収集**

マッチングの基本手順を整理

希望農業者の把握

さまざまなニーズの掘り起こしを通じて、農福連携に取り組むことを希望する農業者を把握します。

細分化と作業環境の把握

単純作業や手作業となる農作業の工程を細分化するとともに作業環境を把握し、福祉施設へ委託できる作業を検討します。

福祉施設への打診

細分化した農作業について、愛知県セルフセンター、市町村福祉担当部署、福祉施設に対し、農福連携の取り組みを打診します。

福祉施設への事前説明

農作業に用いる資材（出荷段ボール、セルブロック、苗など）を用いて、福祉施設に作業内容を説明します。

マッチングの基本手順を整理

農作業体験の 実施

実際に農作業を体験していただきます。
福祉施設の職員（職業指導員）は、就労先の環境条件（トイレの有無、休憩場所の状況など）の確認や障害のある方の農作業体験の様子をみます。

委託契約 の締結

農業者と福祉施設との間で業務委託契約書を締結します。

施設内外就労 の実施

業務委託契約にもとづき、障害のある方に農作業による就労（施設内外就労）を実施します。
また障害のある方の様子を見て、適時、反省と振り返りにより改善を図ります。

マッチング事例

マッチング事例

チンゲン菜の
定植

ほうれん草の
出荷調整

タマネギの
出荷調整

加工用
トマトの
収穫

モロヘイヤの
収穫と調整

はくさい
収穫時の
運搬

越津ネギの
収穫調整

カリフローレの
袋詰め

露地ミカンの
収穫

スプレーマムの
挿し芽

カーネーションの
段ボール箱の
組立て

チンゲン菜の定植



人手が足りないなあ・・・

- ・ 労働力について J A に相談したところ、
J A から福祉施設への農作業委託を提案されました。
- ・ 福祉施設の職員と J A 担当者との打合せを行い、
福祉施設に委託できる作業として、チンゲン菜の定植作業を
検討しました。
- ・ 農作業体験を経て、定植作業を委託できると判断しました。

チンゲン菜の定植

障害のある方が農場にきて、チンゲン菜の定植を行います。



苗をやさしく置きます。



茶色の部分がある
苗はないか確認します。



マルチの穴の真ん中に
苗を差し込みます。

チンゲン菜の定植





時間内に作業ができる！

- 定植作業は、屈んだ状態での長時間作業となるため、身体への負担が大きいです。
このため定植作業を短時間で行うには、パート従業員を複数人確保することが必要となりますが、雇用することは難しかったです。
- 福祉施設への農作業委託では、定植作業を障害のある方が複数人で対応することで、希望作業時間内に終わることができます。とても助かっています。

チンゲン菜の定植

- ・ 若年層の障害のある方の体験の場として、農福連携に取り組んでいます。
- ・ 農作業体験は、就労のための準備として、職業訓練や適正把握につながっています。
- ・ 障害のある方の意欲が高まって能力の向上が図られるとともに、工賃向上につなげていきたいと考えています。

福祉施設の声





農業労働力が足りないなあ・・・

- ・ 空きハウスを活用してほうれん草の生産を検討したとき、出荷調整作業の労働力不足が危惧されました。
- ・ このため、以前に露地野菜の収穫作業を福祉施設に依頼したときに協力いただいた、（一社）愛知県セルフセンターから福祉施設の紹介してもらい、施設内就労による作業をお願いしました。

ほうれん草の袋詰め（出荷調整）

障害のある方が福祉施設で、ほうれん草の出荷調整を行います。



外葉を取り除きます。



根を短く切ります。



根を洗います。

ほうれん草の袋詰め（出荷調整）



コンテナにきれいに並べて入れます。



袋詰用補助具にあらかじめ袋をセットします。



決められた重さになるようにします。

ほうれん草の袋詰め（出荷調整）



補助具を使って
袋に詰めます。



補助具を
袋から外します。



きれいな
仕上がりです。



ほうれん草の袋詰め（出荷調整）



仕上がりに問題なし！

- ほうれん草の生産は、空きハウスの活用が主な目的であり、農産物は J A 産直施設で少量を継続的に販売することをめざしています。
- 福祉施設の方の指示は適切で、仕上がりに問題ないです。J A 産直施設では、農福連携の商品であることをのぼり旗でアピールしています。

ほうれん草の袋詰め（出荷調整）

- ほうれん草は身近な農産物のため、障害のある方は、すぐに作業を覚えることができました。
- 障害のある方からは、「楽しく作業ができています」との感想も聞かれました。
- 袋詰め作業は、およそ半年間の継続した作業です。福祉施設としては、計画的に取り組むことができます。

福祉施設の声



スプレーマムの挿し芽



農福連携に取り組みたいけど・・・

- ・ 以前より農福連携に関心があり、平成30年度にはJ Aとともに農作業を検討しました。その結果「スプレーマム挿し芽」を候補とし、福祉施設に打診しましたが、当時はマッチングできなかったです。
- ・ 令和元年度に再度チャレンジすることとし、市福祉担当部署から市内の福祉施設の情報を入手して打診。関心を示した福祉施設に農作業を体験していただいたのち、農作業を委託しました。

スプレーマムの挿し芽

障害のある方が農場に来て、スプレーマムの挿し芽を行います。

福祉施設の職員も仕上がりを確認します。



1
ひとにぎりの苗を手に取ります。



2
人差し指の第一関節までの下葉を取ります。



3
トレイの穴の底まで挿し込みます。



4
挿し残しがないかを最後に確認します。

スプレーマムの挿し芽



障害のある方は、
福祉施設の職員から
ていねいに説明をうけます。



生育も順調です。





農業労働力が確実に見込める！

- 農作業について福祉施設の方と相談し、農作業体験を通じて農福連携における問題点を整理できました。
- 福祉施設の方に伝えれば、障害のある方に適切に声掛けしていただけるため安心でした。
- 福祉施設への農作業の委託は、確実に作業量が見込めるため、今後も計画的に作業を委託したいです。

スプレーマムの挿し芽

- 農業用ハウス内の作業となるため、環境等対応できるか不安でしたが、農作業体験で作業工程や道具が確認できて、不安なく取り組めることができました。
- 特産であるスプレーマムの栽培にかかわることができ、障害のある方たちの農業への関心は高まっています。
- スプレーマムが成長した様子を見ることもでき、楽しく作業ができています。

福祉施設の声



農福連携への理解を広げるために

障害のある方が
農業で活躍していることを
地域の農業者に知ってもらう
ことが重要！

**農福連携に
取り組んでいることが
分かるようにしよう！**

農場に掲げる
のぼり旗



産直施設などで
使えるミニのぼり旗



リーフレット

PR動画

広報の活用

農福連携への理解を広げるために

JAグループ愛知の農福連携の取り組みを動画共有サイト「YouTube」に掲載し、理解促進を図っています。

スマートフォンでQRコードを読み取っていただくと、ご覧いただくことができます。





J A 愛知中央会
